

里親(企業オーナー)向け まつだい棚田バンクメニュー

年会費…………… 420,000円(税別)

保有面積…………… 約1,500㎡

配当米の目安…… 精米約300kg

申込時期

随時受け付けております。9月末までの登録(入金完了)で、その年の里親資格の保有となります。

里親の会員期限

入会日より1年間となります。

配当米

まつだい棚田バンクの配当米は、獲れ高制です。表示の配当米の量はあくまで目安であり、気候などの条件によって、毎年変動します。その年の収穫量と配当米については、11月ごろに各里親さまに、事務局からご報告します。

お米の発送

・発送する時期については、ご相談の上、ご希望いただくタイミングで発送いたします。(収穫後～4月末が目安です)
・年に1回の発送となり、2か所までの分納は会費に含まれます。
その他、詳細はまつだい棚田バンク事務局へお問い合わせください。

お申込み手続き

企業オーナーとして、まつだい棚田バンクへの里親登録をお考えの皆さまは、まつだい棚田バンク事務局へお問い合わせください。

お問い合わせ先

まつだい棚田バンク事務局(NPO法人越後妻有里山協働機構内)

TEL: 025-595-6180(10:00~17:00、水曜休)

E-mail: tanada@tsumari-artfield.com

ECHIGO-
TSUMARI
ART FIELD

越後妻有の棚田を守る
企業パートナーを
募集します

まつだい
棚田バンク
里親募集



そもそも棚田とは？

階段状に連なった田んぼのことで、主に山間部で多く見られます。山麓を切り拓いて作った棚田は、急斜面にあるうえ、あまり広くないことがほとんどです。農機が入れず人の手間がかかるため、「きつところ」から順に、担い手がなくなっています。棚田はおいしいお米を育てる土壌としてや景観地としてだけでなく、山を支え、川を守り、空気をきれいにし、多くの生き物に住みかを提供してきました。また、いざという時は地下水を貯めておくプールになり、さらに地滑りなどの災害防止にも役立つ存在です。

「まつだい棚田バンクの仕組み」は？

棚田の日常の管理は地元の農家と事務局が行ないます。運営資金や農繁期の農作業を里親がサポートし、耕作をすることで棚田を保全します。収穫したお米は、全体の収量とそれぞれの里親が保有している面積に応じて配当されます。

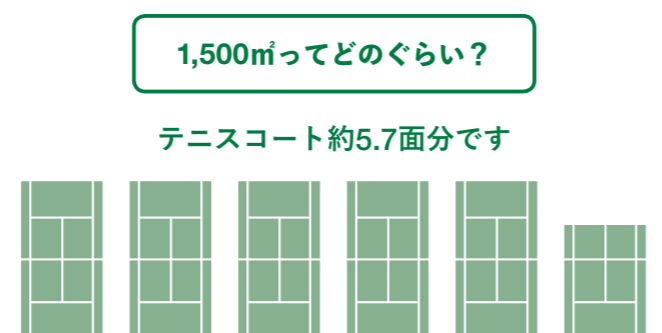


「まつだい棚田バンク」とは？

まつだい棚田バンクは、「大地の芸術祭」の里が取り組むプロジェクトの一つです。新潟県十日町市松代(まつだい)は、「星峠の棚田」をはじめとした、日本有数の棚田が広がる地域です。まつだい棚田バンクは、担い手のなくなった田んぼをできる限り多く引き受け耕作しながら、「大地の芸術祭」が培ったネットワークを活かして、里親(棚田バンクオーナー)や地元住民、アーティスト、企業や学生など、多種多様な人々とともに、都市と地域の交流を広げる活動を行っています。

里親になると？

一口を420,000円とし、1,500㎡の田んぼを担っていただきます。みなさんが保有する田んぼの状況は、年4回の「かわら版」というお便りでお知らせするほか、まつだい棚田バンクのSNSなどで、リアルタイムで発信します。



里親になると、できること。

1

越後妻有の棚田の保全に役立ちます。

出資いただいた資金は、まつだい棚田バンクの田んぼの日常管理に使われ、棚田の保全活動に直結します。通年での田んぼの耕作・日常管理は、NPO 法人越後妻有里山協働機構の農業チーム(女子サッカー選手が棚田の担い手として移住・就農し、プレーする農業実業団チーム「FC 越後妻有」も含む)が担当します。



2

農作業を、イベントやツアーにできます。

① 年3回の定例イベント

越後妻有の豊かな自然の中、田んぼに入って農作業を行ないます。ここでは、個人・企業の里親とスタッフだけでなく、地元の農家や、アーティストや学生など、棚田バンクに関わるありとあらゆる人たちが集います。

- *イベント参加時の昼食や宿泊などは、別途料金が必要です。
- *天候によっては農作業やイベントを実施できない場合がございます。
- *農作業の日程については、稲の成長具合により、約一か月前にお知らせします。
- *定例イベントの参加費は一口30名までは年会費に含まれます。

② カスタマイズイベント

単独でのイベントをご希望の団体さまについてもお受けしています。自分たちの田んぼで、思う存分農作業を。「大地の芸術祭」の作品鑑賞と組み合わせてのツアー形式もおすすめです。

*別途イベント開催料が必要です。詳しくはご相談ください。



田植え 5月末～6月初旬

地元の農家のお父さんたちを先生に迎え、昔ながらの手植えで田んぼに苗を植えていきます。



草刈り 7月

稲をすくすく成長させるために、害虫の住みかとなる畦草(田んぼ周りの草)を刈ります。米作りには、とても大切な作業です。



稲刈りと収穫祭 9月末～10月初旬

黄金色になり、頭を垂れた稲を刈ります。大地の恵みに感謝し、とれたての新米でお祝いをします。



それぞれのイベントには、食事をしながらみんなで楽しむ交流会があります。春は山菜、夏は夏野菜、秋は新米や秋野菜など、越後妻有の豊かな食材が並びます。

3

自分の田んぼでとれたお米が、あらゆるシーンで活躍します。

里親の皆さんは、その年のお米の「収量」と、それぞれが保有する「面積」に応じて、配当米を受け取ります。お送りするお米はもちろん、このプロジェクトで育てた魚沼産のコシヒカリです。企業によっては、オリジナルラベルを貼って顧客に配ったり、社員食堂で提供したりと、配当米を様々な用途で使っていただいています。



理想科学工業株式会社さま社員食堂ポスター



株式会社クラウドワークスさまオリジナルパッケージの棚田バンク米

4

「大地の芸術祭」の里でユニークな企業研修やセミナーができます。

「大地の芸術祭」の作品をアートツアーとして巡ったり、越後妻有の住民と交流したり。ここでの過ごし方はとにかくたくさんあります。実際に新入社員研修や企業セミナーが開催されるなど、棚田バンクをきっかけに新たなコミュニティが生まれています。



〈宿泊施設例〉三省ハウス
「大地の芸術祭」をきっかけに誕生した、廃校を利用したドミトリータイプの宿。企業の研修やセミナー、学生の合宿施設として多用されています。

